



2025

今年もよろしくお願ひ申し上げます

理事長挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、皆様からの温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。会員の皆様、関係者の皆様、そしてご家族の皆様のご協力のおかげで、私たちは昨年も多く笑顔とともに歩みを進めることができました。ありがとうございます。

法人運営におきましては、行政や労働基準監督署からの定期調査や第三者評価を受け、見直す点が多々ありました。法律に則り、正すべきところは正し、新たに基準を設けたものもあります。ぱれっとの事業も42年目に入り、ぱれっとの歴史を知らない職員が殆どを占めるようになりました。ぱれっとを支える会から関わる者として、理念の継承やぱれっとの魅力はどう伝えるか、大きな課題を感じた1年でした。職員人数も昔に比べれば少なくなり、その分一人にかかる業務負担が増えコミュニケーションが取りにくくなる中、お互い共鳴共感することが少なくなりつつあることに危機感をおぼえます。第三者からの評価は、誰もが働きやすい環境と安心して続けられる職場づくりを目指すきっかけにもなりました。

昨年はじめに臨時総会を開き、法人としての大きな提案もしました。緊急一時保護事業の閉鎖は、社会的ニーズを考えるとそう簡単に応えを出すことではないと重々理解しています。それについての渋谷区との懇談会は引き続き行なわれ、今後の方向性についての協議が続いています。

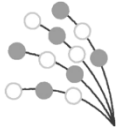
いこっとのグループホーム転換についても、工房ぱれっとの移転拡張の課題と関連しているところもあり、すぐに結論付けることができない状況に変わってきています。新たな住まい方として、シェアハウスのような自立型グループホームのアイデアは、新たな暮らしのニーズに対応できると期待できますが、時間をかけ関係者の方々と検討していく必要があると考えています。

色々な問題・課題がからみ複雑な岐路に立たされているぱれっとですが、利用される人たちが一人ひとり自分らしく安心して過ごせる環境が提供できるよう、スタッフ一同真摯に取り組んでまいります。また、地域とのつながりを深め、共に支え合う社会を目指していく「地域共生社会づくり」は変わらぬ方針で臨む所存であります。

皆様にとって、健康と幸せに満ちた一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

(認定NPO法人ぱれっと 理事長 相馬宏昭)





各事業からご挨拶

ぱれっと事務局▶

2024年を振り返ってみますと、大きな事業変革について各方面で議論を重ねた1年だったと思います。創立41年を迎えたぱれっとにとって、喫緊の大きな課題は「持続可能な組織づくり」と「事業継承」です。絶えず挑戦を続け、理念を追い求めて来た私たちにとって、このことは時に苦渋の選択も伴うものであるということを改めて痛感した1年でした。私がぱれっとの要に籍を置く者として思うのは、NPOは「継続という責任のある事業体」という側面と「変革者、挑戦者としての運動体」という側面を合わせ持ち、それが原動力にならねばならないということです。2025年もこのことを踏まえ、改革と挑戦をテーマに関係者の皆様とともに歩んでいこうと思います。皆様からの温かい応援メッセージは本当に大きな力になります。ありがとうございます。本年もよろしく願いいたします。(事務局長 南山達郎)

たまり場ぱれっと▶

2024年も多くの方々に支えられ、充実した企画を実施することができました。ご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。イベントが増えるたびに、協力いただいている皆さんのお力があって成り立っているのだと実感しております。とりわけ、ボランティアでご支援いただいている方々には感謝申し上げます。

2025年も参加する皆さんが楽しく安全に過ごせる場所を作っていく所存です。たまり場ぱれっとには様々な立場や境遇にいる方が参加されていますが、どんな方にとっても参加しやすい環境を目指し、俯瞰して物事を捉えていきたいと考えます。また昨年から再開したアースデイ東京への出店をはじめ、地域の方々や多世代との交流にも力を入れていきたいと思っています。至らない点も多くあるかと思いますが、本年もご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。(職員 武井琴美)

おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと▶

明けましておめでとうございます。SDGsという旗印のおかげもあってか近年私達のもとに新規の問い合わせが増え、共生社会の機運の高まりを実感しています。また学生らが取材や商品開発の相談に来ることも多く、元気で真摯な若者たちの姿に触れることは私達の活動の励みにもなっています。そうした嬉しい状況の反面、作業所内では職員の入れ替わりがあり、メンバーの不調や不和も続き、職員メンバー共に気力も体力も振り絞っての運営となった一年でした。親の会や理事、ボランティアの方々に販売や箱詰めのお手伝いをいただいたり、長くお付き合いのあるお客様からは余裕をもたせた納期のご提案をいただいたりと、ありがたいサポートを受けながらの運営となっています。大変なこともありますが、この場所は人の優しさがたくさん集まり、喜びをたくさん共有できる場所だと改めて感じています。皆の笑顔が増えるようここからまた頑張っていきます。(所長 玉井七恵)



えびす・ぱれっとホーム/しぶや・ぱれっとホーム▶

新年のご挨拶を申し上げます

昨年は入居者の方々、それぞれ落ち着いた暮らしができました。ご家族の皆様には大変お世話になりました。新たな余暇活動として2つのクラブ活動がはじまり、えびすホームでは料理教室、しぶやホームではダンス教室と、毎回楽しみにしています。しぶやホームでは、晩御飯づくりの手伝いを買って出たり、中には一人暮らしの夢を描く人もいます。

えびすホームでは、緊急一時保護事業を休止しました。ご利用ニーズが高いのは承知していますが、グループホームとの共存は発足当初から心配されていたことなので、入居者の方の高齢にともない暮らしの環境を変えていく必要があると感じています。豊かな暮らしの実現に向け職員一同努力して参ります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。（施設長 相馬宏昭）

ぱれっとインターナショナル・ジャパン（PIJ）▶

新年のご挨拶を申し上げます

国際情勢が不安定な中、ガソリン価格上昇に歯止めが効かず、スリランカ国民の生活にも直結し物価上昇に拍車がかかっています。クッキーなどの嗜好品よりも生活必需品の需要に偏り、サハンセバナ（スリランカの特例子会社）の売り上げも大変厳しいという声を聞きます。

今年、PIJの事業として、サハンセバナのスタッフを日本に招聘し、利用者の高齢化に向けたグループホーム設立の学びの機会を提供する予定です。昨年7月に現地を訪れ、父母会を通じそのニーズが非常に高いことがわかってきました。

ネパールのクッキーづくりプロジェクトは順調に進んでおり、味も好評を得、現地の利用者の方のモチベーションとなっています。引き続きPIJとしての国際協力事業を継続していきます。皆さまのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。（PIJ 代表 相馬宏昭）

ぱれっとの家 いこっと▶

新年のご挨拶を申し上げます

「ちがいをちからに変える街」渋谷区において2026年度福祉計画の中に地域生活支援拠点の面的整備に伴い、支援の充実を図るべく「相談・緊急時の受入れ・地域生活のための体験の場・専門職の人材確保・地域連携に伴った体制づくり」といった5つの機能を持たせた福祉構想があります。この要素は、それぞれの事業所が常に考えるべき課題でもありますので、あらゆる福祉資源との連携が、ニーズの多様化に対応できるかが鍵となります。

障がいのある人がいこっとでの暮らしの実現に向け、相談をはじめ体験の場を設け、暮らし方の選択肢の幅を広げて15年目になります。生活スキルが必要とされるいこっとでの暮らしが中々広がらない現状から、令和7年度はグループホームへの転換を考えています。一人暮らしを希望する人も現れ、新たなぱれっとの事業展開を模索していきます。（理事長 相馬宏昭）